

清武町埋蔵文化財調査報告書 第4集

清武町遺跡詳細分布調査報告書

1990

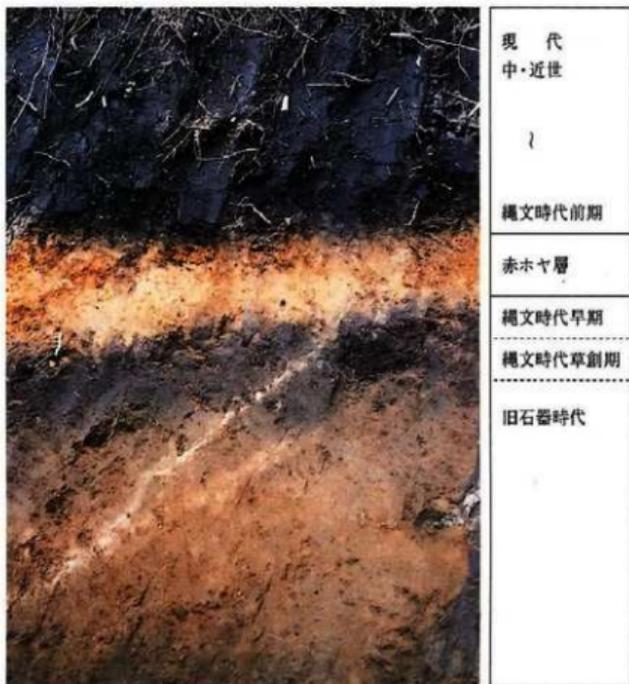
清武町教育委員会

清武町埋蔵文化財調査報告書 第4集

清武町遺跡詳細分布調査報告書

1990.3

清武町教育委員会



町内基本土層断面写真（船引・札立地区）

序

清武町は宮崎平野の南西に位置し、起伏に富んだ温暖な町内は農業を中心とした静かなたたずまいの田園地帯を形成していた所で、町内あちこちに貴重な文化財が散在し、幕末の大儒、安井息軒をはじめ、数々の逸材を生み、また近年は宮崎学園都市、宮崎医科大学等の設置もあって「文教田園都市」の名のもとにその環境整備に力を入れているところがあります。

また最近では県都宮崎市に近接していることもあり、そのベッドタウン化の傾向を強め、町内に於ける人口の増加、変貌の速度には目をみはるものがあり、住み良い生活環境の追求のための都市開発事業が進められています。

しかしながら、これらの開発が自然環境や、先人の遺した貴重な文化財を消滅の危機に曝していることも否めない事実であり、この貴重な遺産をいかに保護していくかが、現在に生きる私たちの受け継がなければならない重大な責務であります。

この認識のもとに今回、文化庁、県教育委員会の御援助のもとに遺跡詳細分布調査を行いましたところ、貴重な遺跡が町内に数多く点在することが確認され、大きな成果をあげることができました。

今後は、これら把握された結果をもとに、積極的な保護対策を検討していくこととなりますが、開発事業を行われる皆様や町民の方々の御理解と御協力が必要であることはいうまでもありませんので格別の御配慮をお願いする次第であります。

この調査にあたり、御協力を頂いた県文化課、調査員の方々をはじめ資料、情報をいただいた町民の皆様に対し、感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

平成2年3月
清武町教育委員会
教育長 黒崎 改 司

例 言

1. 本書は、清武町教育委員会が平成元年度に文化庁・宮崎県教育委員会の補助を得て実施した町内の遺跡分布調査の報告書であるが、国・県・町指定の文化財の一部についても合わせて掲載した。
2. 指定文化財については、その指定地内等で開発事業を行う場合は、文化財保護法、宮崎県文化財保護条例、清武町文化財保護条例等に基づく現状変更許可申請を行い、事前に許可を得ることが必要である。
3. 本書に掲載された遺跡（埋蔵文化財）は、すべて文化財保護法にいう「周知の埋蔵文化財包蔵地」である。
4. 「周知の埋蔵文化財包蔵地」において、土木工事等を実施しようとする場合には文化財保護法により「発掘（工事）に着手しようとする日の60日前までに文化庁長官に届ける」必要があるので土木工事等の計画段階から清武町教育委員会 社会教育課（宮崎県宮崎郡清武町大字船引204番地 ☎0985-85-1111）ないし、宮崎県教育委員会 文化課（宮崎県宮崎市橋通東1丁目9番10号 ☎0985-24-1111）へ事前に照会し協議されたい。
5. 埋蔵文化財は、地下に埋もれている性格上、現在未発見でも工事中等に発見される場合があるが、その場合は、文化財保護法の規則により「その現状を変更することなく、遅滞なく、文化庁長官に届ける」必要があるので、周知の埋蔵文化財包蔵地の周辺で工事等を計画する場合でもなるべく事前に清武町教育委員会 社会教育課まで照会されたい。
6. 調査及び本書の編集にあたっては、面高哲郎氏をはじめ、県文化課諸氏のご指導を頂き、調査区の接する宮崎市教育委員会の野間重孝氏、田野町教育委員会の森田浩史氏の協力を頂いた。
7. 調査にあたっては、加納小学校6年生、による夏期研究結果も参
考とし、岩見山在住の、勢田在住の
には資料の提供を頂いた。記して協
力に感謝したい。

8. 調査の組織は以下のとおりである。

調査主体	清武町教育委員会
事務局	
教育長	黒崎 改司
教育次長	岩元 昭夫
社会教育課長	落合 五夫
同課長補佐	成合 正皓
社会教育係長	小城 員久
社会教育課主事	山下 久美子
調査員	
社会教育課主事	伊東 但
調査補助員	

凡 例

1. 埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）は地図上に黒線の範囲で示し、古墳については▲で単体ごとに示した。また、城跡については赤線の範囲で、史跡、天然記念物については赤の●で示した。
2. 地図上の遺跡番号及び記号は、すべて一覧表のそれと一致する。
3. 遺跡名は原則として小字名に従い、-部のものは通称、俗称によった。
4. 遺跡の所在地は、大字名、小字名で示した。
5. 遺跡番号は、大字で区分し、100番台は大字加納、200番台は大字船引、300番台は大字今泉、400番台は大字木原とした。
6. 一覧表中の旧番号には文化庁版『全国遺跡地図』の中の番号を記した。

総 目 次

I 総 説	1～3
清武町の歴史的環境	
II 清武町文化財関連文献目録	4
III 清武町内指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地一覧表	5～10
附図 清武町遺跡分布図	

挿 図 目 次

第1図 表採遺物実測図 (1)	11
第2図 表採遺物実測図 (2)	12
第3図 表採遺物実測図 (3)	13
第4図 表採遺物実測図 (4)	14

図 版 目 次

図版1 表採遺物写真 (1)	15
図版2 表採遺物写真 (2)	16
図版3 表採遺物写真 (3)	17

I 清武町の歴史的環境

清武町は県央、宮崎平野の南西部に位置し、日南山塊から延びる丘陵の先端部及びその間を流れる清武川とその支流水無川を中心とした低地から成り、川沿いの丘陵地には河岸段丘が発達し、町内の遺跡の大半はこの段丘上平坦面に形成されている。

町内において、現在迄に調査されている遺跡としては、まず宮崎学園都市遺跡群があげられ、対象となる宮崎市大字熊野から清武町大字木原にかかる丘陵上を中心に昭和55年から61年にかけて、多数の遺跡が調査された⁽¹⁾。

このうち清武町内には、下田畑遺跡、小山尻東遺跡、小山尻西遺跡、田上遺跡、赤坂遺跡、入料遺跡、小山尻西石塔群、山内石塔群が所在し、下田畑遺跡からナイフ型石器が、下田畑、小山尻東、田上、赤坂、入料遺跡から縄文時代早期の集石及び土器、石器が、下田畑、小山尻東遺跡から弥生時代の竪穴式住居跡及び遺物等が検出されている。

また、清武川を挟んで対岸の丘陵に於いては、九州縦貫自動車道関係調査遺跡として、昭和51年に城内遺跡、52年に小原遺跡の調査が行われ⁽²⁾、その他の開発により、54年1月に若宮田遺跡⁽³⁾、同じく54年6月には辻遺跡の発掘調査が⁽⁴⁾、63年には圃場整備にかかる角上原遺跡群（田代堀遺跡 上ノ原遺跡）の発掘調査が行われている⁽⁵⁾。

城内遺跡は、清武城域内の遺跡で、石垣、ピット、溝状遺構が陶磁器類と共に検出されたことから二の丸跡と推定され、若宮田遺跡では、押型文、竅ノ神、吉田、前平、轟、市来の各形式の縄文土器や糸切り底の土師式土器、陶質土器等が出土している。また、角上原遺跡群では、田代堀遺跡で古墳時代初頭の竪穴式住居跡と土器、中世の堀立柱式建物跡と陶磁器等の他、細石核や縄文時代後、晩期の土器、石器等が、上ノ原遺跡では、縄文時代早期と晩期の土器、石器と中世の柱穴、陶磁器類が検出されている。

このほか、町内に於いてこれまでに確認されていた遺跡は、文化庁版『全国遺跡地図』によれば、散布地12ヵ所、古墳5基、城跡1ヵ所、『宮崎県縄文弥生考古遺物地名録』によれば、散布地23ヵ所で、このうち散布地のひとつである加納遺跡は大正7年、京都帝国大学教授浜田耕作博士らの調査によりその名が知られるが⁽⁶⁾、古墳5基についてはすでに消滅しており、『宮崎県縄文弥生考古遺物地名録』中の散布地についても重複や現在明確にその場所の把握ができるものは僅かで、その数も不明瞭であった。

また、古代の官道も一石田(三財?)—救麻(熊野?)—教式(不明)—水俣(三股)—と町内を通過していたものと思われ、『延喜式』に記載された駅の内「教麻」の駅を宮崎市大字熊野付近に比定する説が有力であるが、町境を越え、本町木原地区もその推定範囲にはいるように思われる。

さらに町内には、ほぼ南北に、のちの重要交通路である仮肥街道も縦断しており、清武城を始め中近世を中心とした史跡が町内に散財し、ひとつの町の雰囲気や醸し出している。

文献等からとらえられている中世以降の清武を見てみると、鎌倉時代、町内に於ける荘園とその支配関係は、『建久園田帳』によれば、宇佐宮弥勒寺領として船曳五十町、八条女院御領

国富庄として、加納二百町、今泉三十町を見ることができ、この後、南北朝時代には建武中興の功により、国富庄は足利尊氏の所領となり、南加納に政所を置いて細川小四郎義門に治めさせたとされるが、『日向地誌』にも記載のとおり現在もその政所の場所は明確にされていない⁽⁴⁾。

この時期（建武2年）、伊豆より伊東氏（祐時）が日向に下り、代々都於郡城を拠点にその勢力を延ばしていくが、空町時代に入ると島津との攻防を繰り返しながら、日向のほぼ全域を平定し、清武城を含む四十八城を有するまでとなった。

安上桃山時代、元龜3年の木崎原の合戦にやぶれ島津氏に追われた伊東義祐は、大友宗麟を頼って天正5年、豊後落ちし、日向は島津氏の所領となるが、天正15年、豊臣秀吉の九州征伐の功により義祐の子祐兵より再び、飫肥、曾井、清武をこの後、幕末までの約300年間所領することになる。

このように、中近世の清武は、そのほとんどが伊東氏の所領期であったことから、広くその武士文化が浸透する基盤を持っており、特に現市街地を取り囲む丘陵地帯には寺院、神社が数多く建立され、『日向地誌』によれば、寺院16、神社5を数える。

なかでも明治5年に廃寺となった勢田寺は日向七堂伽藍のひとつに数えられ、飫肥街道沿いに立地し、十二支院を持つ大伽藍であったとされ、宮崎学園都市遺跡群中の山内石塔群及び県指定有形文化財の五輪塔はこの勢田寺に関連するものとされる。

山内石塔群は記年在銘からは文明年間から天明年間にかけての約450基余りの五輪塔や板碑で構成されているが、同じく1,237基を数え、その大半に記年在銘のある宮崎市生日の市指定史跡妙円寺石塔群では200年近く続いた石塔の建立が伊東氏没落を境に途絶える状況がとらえられており、この状況が山内石塔群でも看取されることから、伊東氏とこれら寺院との深い繋がりを伺い知ることができる。

なお、妙円寺石塔群では、在銘中の人名から、伊東氏の本統である祐持以前に日向に下った伊東支族、門川流伊東氏の強い関わり合いが窺われるようであるが、祐持下向以前に清武に在った清武氏もまた同じ門川流伊東支族である。

- | | | |
|----------------------------|-----------|----------|
| 註(1) 宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書 第1～4集 | 1984～1988 | 宮崎県教育委員会 |
| (2) 九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告 (3) | 1976 | 宮崎県教育委員会 |
| (3) 若宮田遺跡発掘調査報告書 | 1979 | 清武町教育委員会 |
| (4) 辻遺跡 | 1980 | 清武町教育委員会 |
| (5) 角上原遺跡群 | 1989 | 清武町教育委員会 |
| (6) 宮崎県文化財調査報告書 第二輯所収 | 1957 | 田中 熊雄 |

- (7) 調査ヵ所等は現在不明であるが、『宮崎県の考古学』中、石川恒太郎氏は妙(明)栄寺西側の調査ヵ所について“加納遺跡”の名称を使用されているが、遺跡自体の時期は後期とされており、浜田博士等の調査ヵ所とは異なる様である。

ここでは周辺の福神屋敷遺跡等を含めた“遺跡群”の名称としてとらえたい。

- (8) 『清武町史』中、石川恒太郎氏は『建久図田帳』と後の『日向国五分帳』との加納の面積の違いについて、“加納が南加納と北加納に別れ、南加納が木原となり、北加納が加納として残り、現在の南加納の地名は後世のもの”と考察されており、この意見に追従すれば、政所の所在は現在の木原地区ということにもなる。

また、現在の加納下岩見田の丘陵上に“ぎにょもん屋敷”と呼ばれる砲台状の平場があり、義門を“ぎもん”と読み、これがなまったものとしてこの場所に比定する意見もある。

- (9) 宮崎市の文化財

1988 宮崎市教育委員会

Ⅱ 清武町内文化財関連文献目録

- | | | |
|----------------------------|-----------|-------------|
| 1. 日向地誌 | 1883 | 平部崎南 |
| 2. 日向国史 | 1929 | 喜田貞吉 |
| 3. 日向郷土資料集 第1巻 第5巻 | 1963 | 日向郷土史料集刊行会 |
| 4. 宮崎県文化財調査報告書 第二輯 | 1957 | 宮崎県教育委員会 |
| 5. 宮崎県の考古学 | 1968 | 石川恒太郎 |
| 6. 全国遺跡地図 | 1977 | 文化庁 |
| 7. 清武町史 | 1960 | 清武町 |
| 8. 九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告 (3) | 1976 | 宮崎県教育委員会 |
| 9. 宮崎学園都市遺跡調査報告書 第1集 | 1984 | 宮崎県教育委員会 |
| 10. 宮崎学園都市遺跡調査報告書 第2集 | 1985 | 宮崎県教育委員会 |
| 11. 宮崎学園都市遺跡調査報告書 第3集 | 1985 | 宮崎県教育委員会 |
| 12. 辻遺跡 | 1980 | 清武町教育委員会 |
| 13. 若宮山遺跡 | 1979 | 清武町教育委員会 |
| 14. 角上原遺跡群 (田代堀第1遺跡・上ノ原遺跡) | 1989 | 清武町教育委員会 |
| 15. 清武町の文化財 石造物編第1～4集 | 1978～1981 | 清武町文化財審議委員会 |
| 16. 清武町の文化財 木像物編 | 1982 | 清武町文化財審議委員会 |
| 17. 清武町の歩みと文化財 | 1985 | 清武町教育委員会 |
| 18. 安井息軒 | 1975 | 安井息軒顕彰会 |
| 19. 安井息軒書簡集 | 1987 | 安井息軒顕彰会 |

Ⅲ 清武町内指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地一覧表

清武町内指定文化財一覧 (不動産関係物件)

番号	名称	所在地	種別	指定	指定年月日	備考
001	安井息軒旧宅	大字加納字中ノ尾	史跡	国	昭和54年5月22日	
002	清武の大楠	大字船引字北ヶ追	天然記念物	国	昭和26年6月9日	
003	五輪塔	大字木原字黒坂	有形文化財	県	昭和41年7月17日	
004	伊東祐堯公墓	大字加納字不動追	史跡	町	昭和53年9月8日	
005	稲津掃部助墓	大字加納字年神	史跡	町	昭和45年7月23日	
006	伊東家僞墓	大字加納字内	史跡	町	昭和53年9月8日	
007	山内石塔群	大字木原字黒坂	有形文化財	町	昭和63年4月30日	

清武町埋蔵文化財包蔵地一覧表

101～ 大字加納

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号	文献	備考
101	清武城跡	字城内	城跡	中世	19-141	1,6,7,8,17	一部町指定史跡
102	清武町第1号墳	字岩見田	古墳	古墳	19-138	4,6,7	前方後円墳 消滅
103	◇ 第2号墳	◇	◇	◇	19-137	◇	円墳 消滅
104	◇ 第3号墳	◇	◇	◇	19-136	◇	◇
105	清武町古墳	字白砂坂	◇	◇		◇	◇
106	清武町第4号墳	字傘松	◇	◇	19-139	◇	所在不明
107	◇ 第5号墳	字流町	◇	◇	19-140	◇	◇
108	岡ノ屋敷遺跡	字家次	散布地	縄文、弥生			
109	福神屋敷遺跡	◇	◇	弥生	19-119	6	

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
110	町ノ前遺跡	字町ノ前	散布地	弥生		5,7	
111	ぎにもん屋敷遺跡	字下岩見田	◇	古墳		1,7	細川小四郎義門政所説あり
112	長嶺遺跡	字長嶺	◇	弥生		4,6,7	
113	傘松遺跡	字傘松	◇	縄文～古墳			
114	古陣遺跡	字古陣	◇	弥生、古墳			城跡説あり
115	中ノ尾第1遺跡	字中ノ尾	◇	縄文、弥生 平安			国指定史跡安井息軒旧宅を含む
116	中ノ尾第2遺跡	字中ノ尾	◇	縄文、弥生 平安、中世	19-142		
117	槍ノ内第1遺跡	字槍ノ内	◇	弥生、平安			
118	槍ノ内第2遺跡	字槍ノ内	◇	弥生			
119	中原遺跡	字中原	◇	縄文、弥生			
120	菖蒲迫遺跡	字菖蒲迫	◇	縄文、弥生			
121	須田木遺跡	字須田木	◇	縄文、弥生			
122	不動迫遺跡	字不動迫	◇	縄文			

201～ 大字船引

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
201	園田遺跡	字園田	散布地	縄文～中世			
202	札立第1遺跡	字札立	◇	縄文、弥生			
203	札立第2遺跡	字札立	◇	縄文、弥生			
204	下猪ノ原遺跡	字下猪ノ原	◇	弥生			
205	上猪ノ原遺跡	字上猪ノ原	◇	弥生			

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
206	坂元第1遺跡	字坂元、札立	散布地	弥生			
207	坂元第2遺跡	字坂元	◇	縄文			
208	山田遺跡	字山田	◇	縄文、弥生			
209	滑川第1遺跡	字滑川	◇	縄文、弥生			
210	滑川第2遺跡	字滑川	◇	縄文、弥生			
211	白ヶ野第1遺跡	字白ヶ野	◇	縄文、弥生			
212	上ノ原第1遺跡	字上ノ原	◇	縄文、弥生		4,6,7	
213	上ノ原第2遺跡	字上ノ原	◇	縄文、弥生		◇	
214	上ノ原第3遺跡	字上ノ原	◇	縄文、弥生		◇	
215	上ノ原第4遺跡	字上ノ原	◇	縄文		◇	
216	白ヶ野第2遺跡	字白ヶ野	◇	縄文、弥生			
217	白ヶ野第3遺跡	字白ヶ野	◇	縄文、弥生			
218	黒北南第1遺跡	字黒北南	◇	縄文、弥生			
219	黒北南第2遺跡	字黒北南	◇	縄文、弥生			
220	権現原遺跡	字権現原	◇	縄文、弥生		4,7	
221	牧原遺跡	字牧原	◇	弥生			
222	下ノ原遺跡	字下ノ原	◇	縄文、弥生	19-143	4,6,7	
223	井手ノ城遺跡	字井手ノ城	◇	縄文、弥生	19-114	6	城跡説あり 旧名称正手遺跡

301～ 大字今泉

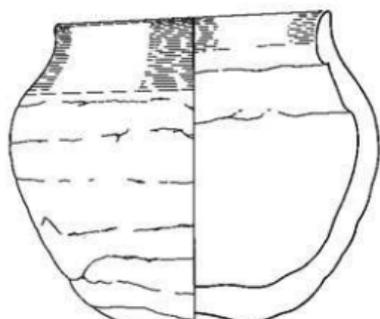
遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
301	栢原遺跡	字栢原	散布地	縄文、弥生			
302	尾平遺跡	字尾平	◇	縄文、弥生			
303	山田第1遺跡	字山田	◇	縄文			
304	山田第2遺跡	字山田	◇	縄文			
305	穴ノ口遺跡	字穴ノ口	◇	縄文			
306	上ノ原遺跡	字上ノ原	◇	弥生			
307	小原遺跡	字鶴田、小原	◇	縄文			
308	下ノ原遺跡	字下ノ原	◇	縄文			
309	永ノ原遺跡	字永ノ原	◇	縄文、弥生			
310	竹ノ内遺跡	字竹ノ内、大久保	◇	縄文、弥生			
311	杉木原遺跡	字杉木原、星野	◇	縄文			
312	小原遺跡	字小原	◇	縄文、弥生			
313	通山第1遺跡	字通山	◇	縄文			
314	通山第2遺跡	字通山	◇	縄文、弥生			
315	谷ノ口遺跡	字谷ノ口	◇	縄文、弥生			
316	岡第1遺跡	字岡	◇	縄文、弥生			
317	岡第2遺跡	字岡	◇	縄文、中世			
318	岡第3遺跡	字岡	◇	縄文、弥生			
319	岡第4遺跡	字岡	◇	縄文、弥生 平安			
320	中泉遺跡第1地区	字中泉	◇	縄文、弥生 平安			
321	中泉遺跡第2地区	字中泉	◇	弥生、平安			

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
3 2 2	中泉遺跡第3地区	字中泉	散布地	縄文、弥生			
3 2 3	中泉遺跡第4地区	字中泉	◇	縄文、中世			
3 2 4	中泉遺跡第5地区	字中泉	◇	縄文、弥生			
3 2 5	中泉遺跡第6地区	字中泉	◇	縄 文			
3 2 6	竹ノ山遺跡	字山ノ口	◇	縄文、弥生	19-145	6	
3 2 7	上ノ原遺跡	字上ノ原	◇	縄文、中世		14	一部調査(1988)
3 2 8	田代堀遺跡	字田代堀	◇	縄文~中世		14	一部調査(1988)
3 2 9	三角堀遺跡	字三角堀 田代堀	◇	縄 文			
3 3 0	前畑遺跡	字前畑	◇	縄文、弥生			
3 3 1	高尾遺跡	字高尾	◇	縄 文			

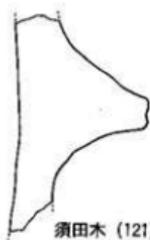
4 0 1 ~ 大字木原

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
4 0 1	辻 遺 跡	字辻	集落跡	旧石器、縄文 平安	19-146	12	調査後削平 (1980)
4 0 2	若 宮 田 遺 跡	字若宮田	◇	縄文~中世		13	調査後削平 (1979)
4 0 3	勢 田 遺 跡	字勢田	散布地	縄 文			
4 0 4	長 割 遺 跡	字長割、八反田	◇	縄文、弥生 中世			
4 0 5	横 小 路 遺 跡	字横小路	◇	縄 文			
4 0 6	中木原遺跡第1地区	字横小路	◇	弥生、中世			
4 0 7	中木原遺跡第2地区	字下田畑	◇	縄文、弥生			
4 0 8	中木原遺跡第3地区	字下田畑	◇	縄文、弥生			

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
409	下 原 遺 跡	字下原	散布地	縄文、弥生			
410	北ノ原遺跡	字北ノ原	◇	縄文、弥生			
411	山内石塔群	字山内	石塔群	中 世		9	調査後削平 (1982)
412	赤坂遺跡	字赤坂	集落跡	縄文、中世		11	◇ (1981)
413	下田畑遺跡	字下田畑	◇	縄文、中世	19-148	11	◇ (1984)
414	小山尻西石塔群	字小山尻	石塔群	中 世		11	◇ (1984)
415	浦田遺跡	字浦田	集落跡	弥生 平安~中世		10	◇ (1984)
416	入料遺跡	字入料	◇	縄文、中世		10	◇ (1980)
417	田上遺跡	字田上	◇	縄 文		11	◇ (1984)
418	小山尻東遺跡	字小山尻	◇	縄文、平安		11	◇ (1984)
419	清武町古墳	字北ノ原	古墳	古 墳	19-149	6	所在不明



ぎによもん屋敷 (111)



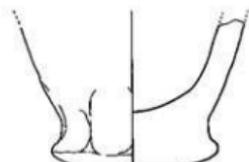
須田木 (121)



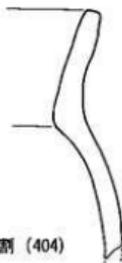
槍ノ内第1 (117)



竹ノ内 (310)



竹ノ内 (310)



長割 (404)



下ノ原 (308)



長割 (404)



長割 (404)



竹ノ内 (310)



竹ノ内 (310)



長割 (404)



竹ノ内 (310)



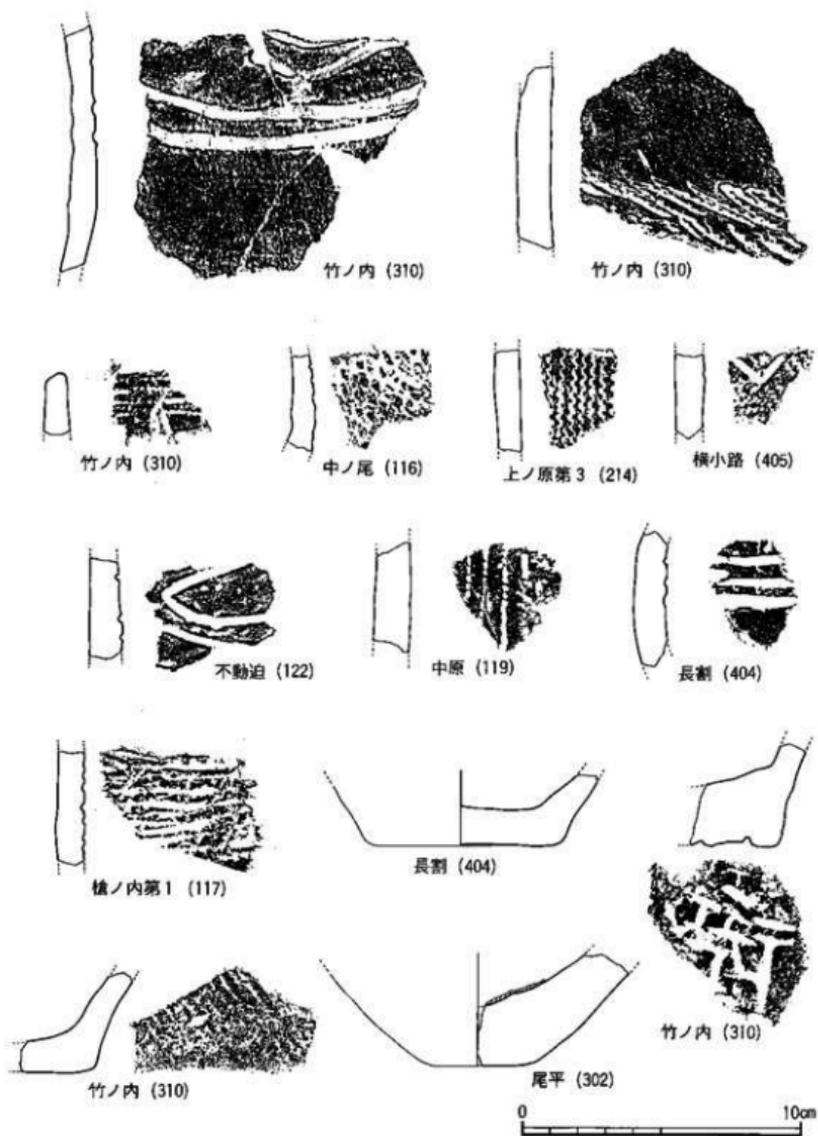
上ノ原第3 (213)



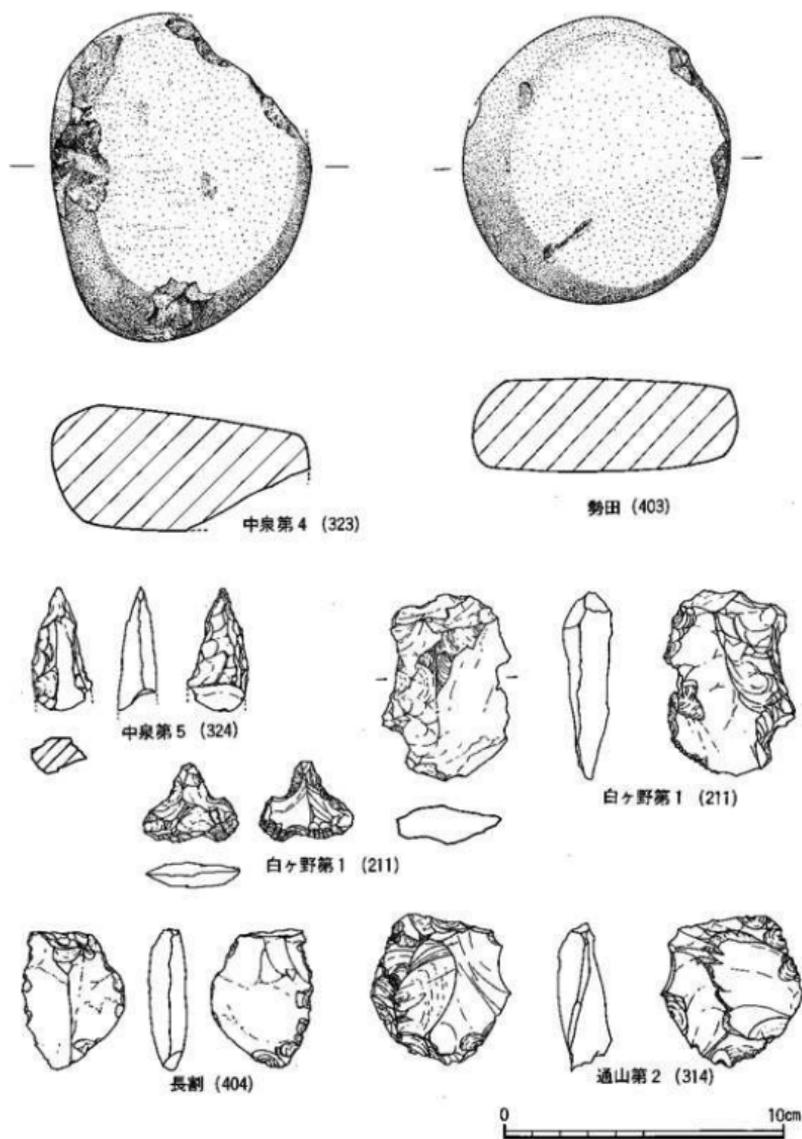
長割 (404)



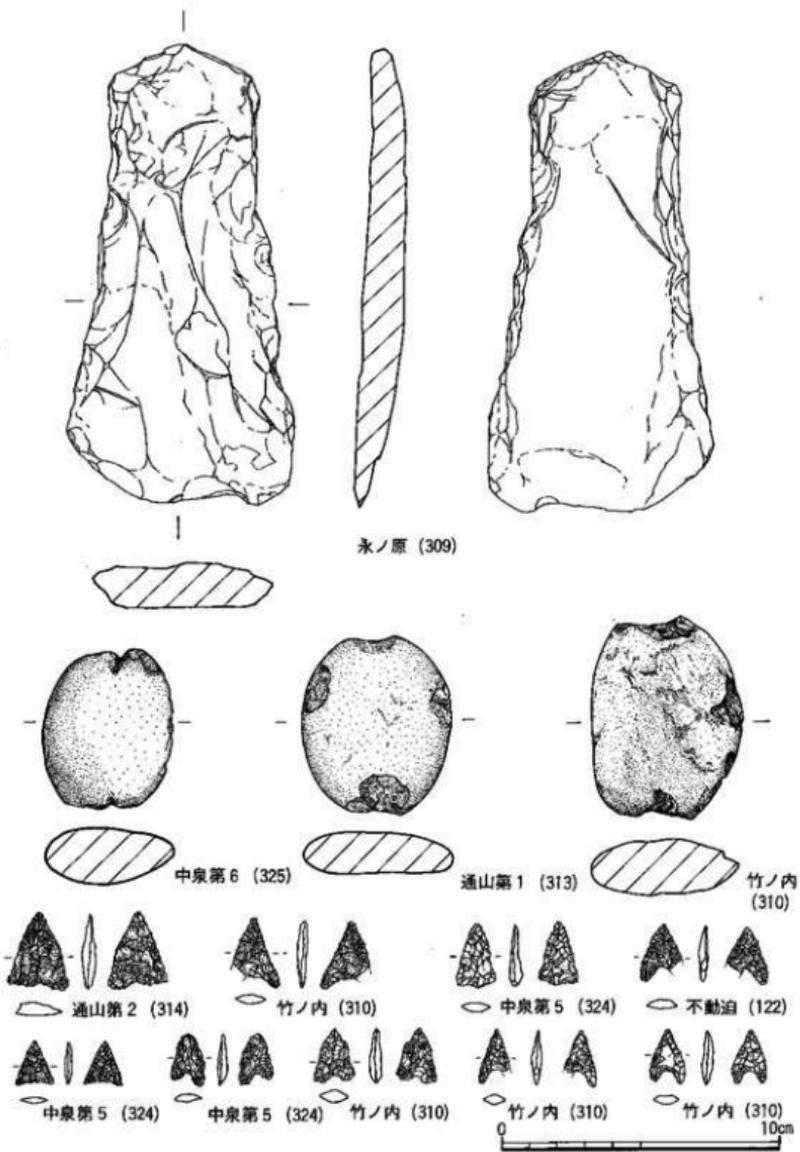
第1図 表採遺物実測図(1) 1/2



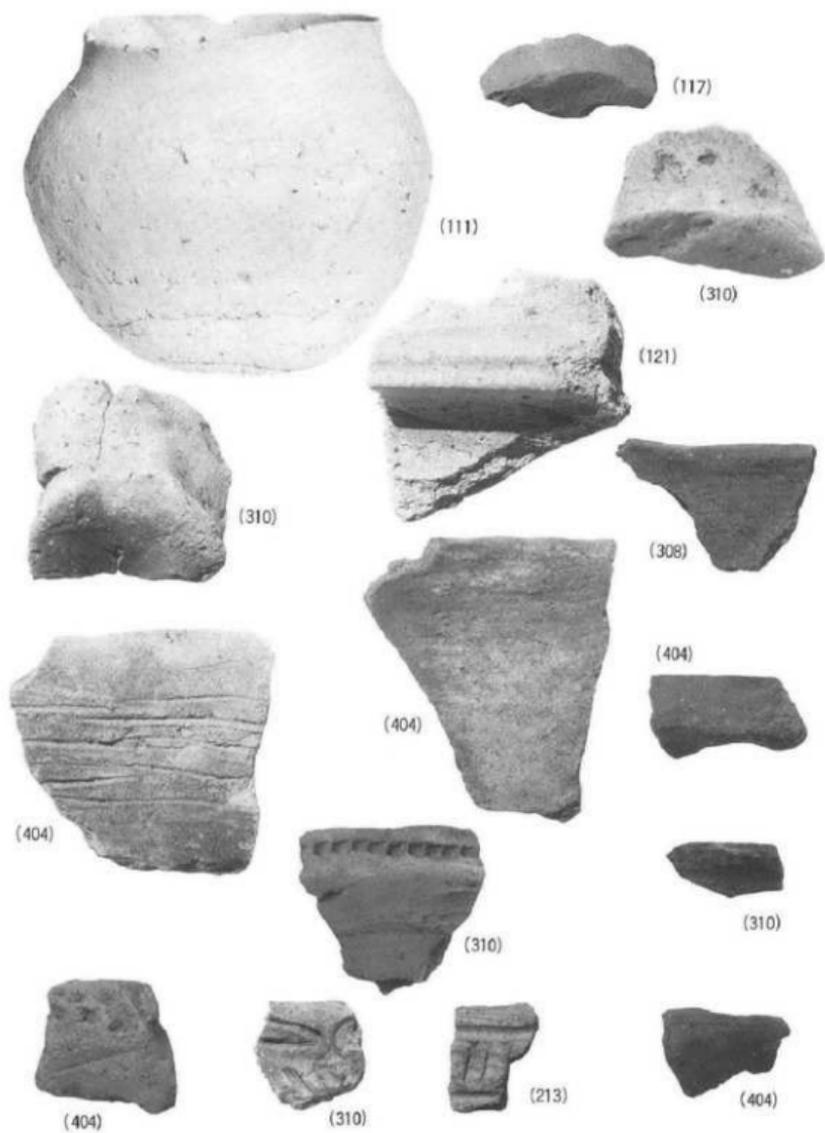
第2図 表探遺物実測図(2) ½



第3図 表採遺物実測図(3) ½



第4図 表採遺物実測図(4) 1/2



图版 1 表探遺物写真(1)



(310)



(310)



(310)



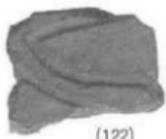
(116)



(214)



(405)



(122)



(119)



(404)



(117)



(404)



(310)

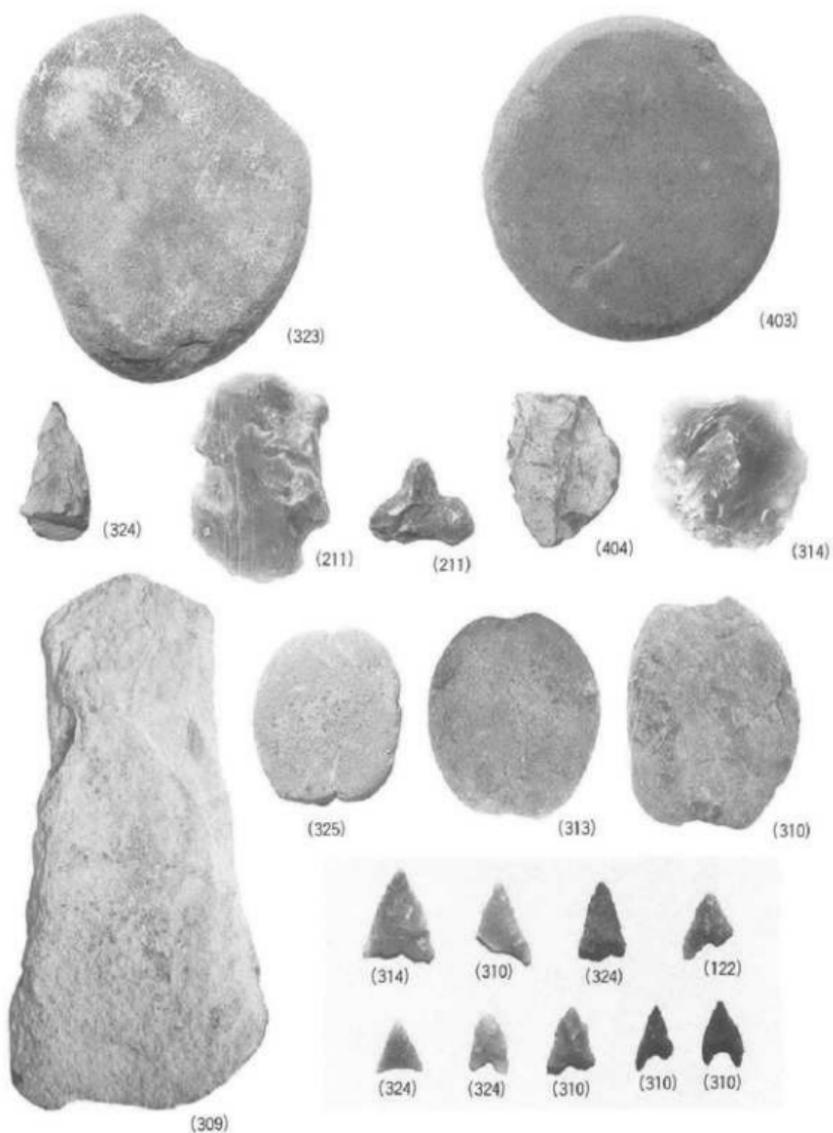


(302)



(310)

図版2 表採遺物写真(2)



图版3 表探遺物写真(3)

清武町遺跡詳細分布調査報告書

清武町埋蔵文化財調査報告書第4集

発行年月日 平成 2 年 3 月
発 行 清 武 町 教 育 委 員 会
印 刷 簡 愛 文 社 印 刷

